チャレンジ！！オープンガバナンス2016
宇部市報告会

ICTを使った災害対応システム

平成29年2月3日

TEAM　西岐波

チーム紹介

平成１１年台風１８号による高潮による甚大な被害を受けた宇部市の西岐波地区における自主防災組織を中心としたメンバーにより構成された八人によるチームである。

「災害列島1999」より
国土交通省

アイデアの背景

１　今後、大規模な災害等が発生した場合、適切な支援をすることができるのかという認識

２　自主防災組織の役員の交代による知識・経験の陳腐化

３　熊本地震にみられる過去にその地域で経験のない大災害が起きるという事実

アイデアの内容

◎　ICTを使った全国統一の災害対応システムを構築し、全国どこからでもシステムが使えるよう一括管理する機構を組織し、災害が発生した都道府県または市町村の要請に伴い開放するシステムを開発する。

①　機構からパスワードを入手し、独自のサイトを開設する。

②　あらかじめ決めてある避難所等にICTの端末を持ち込み、システムの要求するデータを入力し、更新していく。

③　関係団体や誰でも自由に見られるホームページにより外部提供する。

④　物資の寄付やボランティアの申し込みを受けるサイトを開設する。

⑤　関連情報を提供するサイトを設ける。

アイデアの論拠

１　宇部市において災害が起きた時のICTサービスの導入なし。
２　宇部市の緊急避難場所及び避難所は１１８か所。
３　災害備蓄食料として、アルファ米を1,９２５食、粉ミルクを3，６９６回分を保存。
４　宇部市は、３６３機関と防災協定を締結。
５　熊本地震における避難所数及び避難者数の最大は、４月１７日の８５５か所及び１８３,８８２人であった。

アイデア実現までの流れ

◎　宇部市にJAXA（宇宙航空研究開発機構）の研究センターが整備されたことに伴い、宇部市において全国組織を立ち上げシステムを構築する。

①　宇部市及び山口県により国へシステム承認を受ける。

②　全国組織への参加要請をし、国を含めた協議会を立ち上げる。

③　各企業のICTサービスを調査し、システム標準化を行う。

④　災害情報の外部公開の範囲を決定する。

⑤　JAXAのデータの組み込みを協議・決定する。

⑥　プロポーザル方式によりシステムを構築する。

⑦　システムを運用管理していく管理機構を組織する。

⑧　震災対策編を最初に構築し、順次、風水害編、火災・事故災害対策編の開発を行う。

①～②を１年間、③～⑦を次の１年間、⑧を次の１年間で実施。

まとめ

①　想定外の災害はどこでも起きる。担当する市町村の職員であっても新規採用であったり、人事異動であったり、日常業務に追われ災害に対する知識・技能が不足している。
②　災害時、一番重要なことは正確な情報の共有化である。
③　大災害になればなるほど情報が錯綜し、コントロールが難しくなる。

　これらを解決するため、全国的に経験した知識を集約したシステムを構築し、システム側からの必要データを蓄積・活用することにより関係部署や団体が自主的に動くことができ、多くの人の救済が可能になる。

①　２０２０年までに全国すべての学校に無線LANが整備される。
②　JAXAの情報を加えていくことで、正確な情報が発信できる。
③　ICTサービスを各市町村が整備することは困難である。
④　全国システムであるため、他自治体の応援体制が機能する。

ご清聴ありがとうございました。

TEAM　西岐波